

**令和5年度
第2回高知市食育推進会議 資料**

日時：令和5年10月16日（月）18：30～20：30
場所：総合あんしんセンター3階 大会議室

【目次】

●高知市食育推進会議条例	1
●高知市食育推進会議委員名簿	2
●高知市食育推進委員会（庁内体制）	3
●議事	
(1) 高知市食育に関するアンケート調査結果	
①高知市食育に関するアンケート調査結果概要	4～5
②第3次高知市食育推進計画 食育推進に向けた目標値 達成状況	6
③アンケート結果から見えてきた高知市の課題	7
(2) 第4次高知市食育推進計画について	
①計画の位置づけ・計画の期間	8
②スローガン・食育推進の視点	9
(参考) 図表2：健康日本21（第三次）の概念図	10
③取組の柱と具体的な取組	11

高知市食育推進会議条例をここに公布する。

平成30年1月1日

高知市長 岡崎 誠也

高知市条例第4号

高知市食育推進会議条例

(設置)

第1条 食育基本法（平成17年法律第63号。以下「法」という。）第33条第1項の規定に基づき、高知市食育推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項について、協議及び必要な調整を行う。

- (1) 法第18条第1項に規定する市町村食育推進計画（以下「食育推進計画」という。）の作成に関する事項
- (2) 食育推進計画の実施の推進に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、食育の推進のために必要な事項

(組織)

第3条 推進会議は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する委員15人以内をもって組織する。

- (1) 生産者又は事業者（法人その他の団体にあつては、その役職員等）
- (2) 医療又は保健団体関係者
- (3) 教育又は児童福祉関係者
- (4) 学識経験者
- (5) 食育に関する施策の対象となる市民団体の役職員等
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が適当と認める者

(会長及び副会長)

第4条 推進会議に会長及び副会長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、会務を総理し、推進会議を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、委嘱の日から委嘱した日の属する年度の翌年度の末日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(会議)

第6条 推進会議の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

- 2 推進会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 推進会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(資料提供その他の協力等)

第7条 推進会議は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提供、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(守秘義務)

第8条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第9条 推進会議の庶務は、健康福祉部において処理する。

(その他)

第10条 この条例に定めるもののほか、推進会議の運営について必要な事項は、会長が推進会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(会議の招集に関する特例)

2 この条例の施行の日以後最初に開催される推進会議の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

高知市食育推進会議 委員名簿

任期:令和4年4月1日～令和6年3月31日

(敬称略)

分野	氏名	所属・職名
生産者 事業者	さかもと なおき 坂本 尚紀	高知市農業協同組合 営農経済部 部長
	たむら まさのり 田村 真範	株式会社サンプラザ 常務取締役
	さんのみや ゆきひろ 三宮 幸弘	高知商工会議所青年部 会長
医療・保健 関係者	ふない まもる 船井 守	一般社団法人 高知市医師会 会長
	たおか たろう 田岡 太郎	一般社団法人 高知市歯科医師会 専務理事
	にいや みち 新谷 美智	公益社団法人 高知県栄養士会 会長
教育 児童福祉 関係者	みなくち ともひろ 水口 智裕	高知市民営保育所協議会園長会 会長 (五台山保育園長)
	ふじた ゆきこ 藤田 由紀子	高知市立小中義務教育特別支援学校長会 (浦戸小学校長)
	はまじ ふみこ 濱地 扶美子	高知商業高等学校 教諭
	ふるや こ 古谷 まり子	高知市社会福祉協議会 地域協働課 課長
学識経験者	わたなべ けいこ 渡邊 慶子	高知学園大学 健康科学部管理栄養学科 学科長
市民団体等	ちかもり さよ 近森 佐代	高知市小中学校PTA連合会 副会長
	はまうず さちこ 濱渦 祥子	高知市食生活改善推進協議会 会長
	にしもり みえ 西森 美恵	食と健康を学ぶ会 理事
	みたに ひでこ 三谷 英子	学校法人三谷学園 RKC調理製菓専門学校 常任顧問

以上 15 名

高知市食育推進委員会(庁内体制)

こども未来部	母子保健課
	保育幼稚園課
教育委員会	教育政策課
	学校教育課
総務部	文化振興課
市民協働部	地域コミュニティ推進課
農林水産部	農林水産課
商工観光部	商業振興・外商支援課
環境部	新エネルギー・環境政策課
健康福祉部	基幹型地域包括支援センター
	生活食品課
	健康増進課

(1) 高知市食育に関するアンケート調査結果

① 高知市食育に関するアンケート調査結果概要

① 食育への関心について

- 食育に関心がある人の割合は5年前に比べ、20歳代男性で特に高い。また、全体では約8割が食育に関心がある。
- 食育の実践では、幼児は「食べ物を大切に作る」「食事マナーに気をつける」「栄養バランスのとれた食事をする」の割合が5年前と比べ低い。
- 食育の実践では、小学生は「食べ物を大切に作る」「食事を作ってくれた人へ感謝する」の割合が5年前と比べ高く、中学生はどの項目も高い。
- 成人では「一日3食食べる」を実践している割合が、5年前に比べ低い。

② 現在の食生活について

- 幼児、小中学生とも、朝食を食べる人の割合が5年前に比べ高い。
- 若い世代では、男女とも朝食を食べる人の割合が5年前と比べて高くなっているが、他の年代に比べると依然として低い。
- 朝食を食べる人の割合は、成人全体では5年前と比べ、ほぼ横ばいであるが、50歳代以降はやや低くなっている。
- 朝食の欠食理由では、児童生徒や若い世代では「時間がない」の割合が高い。
- 朝食の欠食理由で「食べる習慣がない」の割合が5年前と比べ、小中学生、成人で高くなっている。
- 幼児、小中学生では就寝時間が遅いほど、朝食を食べる割合が低い。
- 「主食・主菜・副菜」そろえて1日2回以上食べる割合は5年前と比べ、若い世代では高くなっているが、40歳代以上では横ばいか低くなっている。
- 若い世代の女性は全国と比べ、「主食・主菜・副菜」そろえて1日2回以上食べる割合が高い。
- 外食や惣菜・弁当を選ぶとき重視することについては、30～40歳代は「その時の気分」、他の年代は「好きな料理」の割合が高い。年代が上がるほど「栄養バランス」を重視する割合が高い。幼児保護者では「好きな料理」を重視する割合が最も高い。
- 外食や惣菜・弁当を選ぶとき重視することについて、暮らし向きでみると、ゆとりのない人ほど「価格」を重視する割合が高く、ゆとりのある人ほど「栄養バランス」を重視する割合が高い。
- 食生活の問題では、若い世代では「欠食、時間が不規則、栄養バランスに偏り」の割合が高く、40歳代以降は「食べ過ぎる」の割合が高くなる。
- 7種類以上の食品グループを毎日食べている人の割合は、70歳代が一番高いが、60歳代はその半分程度である。

③ 共食の状況について

- 朝食を誰かと一緒に食べている中学生の割合は5年前より少し高くなっている。夕食を誰かと一緒に食べる小学生の割合は少し低くなっているが、中学生では高くなっている。
- ひとり世帯では他の世帯構成に比べ孤食の割合が高く、60～70歳代ではより高い。
- 家族以外の人と一緒に食事をする機会は5年前に比べ減少している。
- 家族以外の人と食事をする機会があれば参加したいかでは、参加したいと思う人の割合は5年前と比べ、70歳代以外で高く、全国と比較しても(70歳代以外は)参加したいと思う人の割合は高い。

④生活習慣病の予防や改善に関する実践状況について

- 生活習慣病の予防や改善のために気をつけた食生活を実践している人の割合が、全国より低い。
- 減塩の取組については、5年前に比べ、どの項目も実践している割合が高くなっており、また減塩に気をつけた取組を実践している市民も70歳代以外で高くなっている。
- 口の健康のために気をつけていることでは、どの年代でも「丁寧に歯をみがく」割合が最も高い。5年前と比べ、40歳代以外では「定期的に歯科医院を受診する」割合が高くなっている。
- ゆっくりよく噛んで食べているかについては、5年前に比べ、小中学生は高くなっている。成人も高くなっているが、全国に比べると低い。

⑤食文化について

- 伝統的な行事の食べ物（おせち料理や七草がゆ、冬至のかぼちゃ料理など）を家庭で食べるがあるかについては、5年前に比べ幼児、小中学生、20～40歳代で低くなっている。
- 高知ならではの料理や食材（皿鉢料理、いたどりなど）を食べたことがあるかについては、5年前に比べ幼児、小学生は低く、中学生は高くなっている。
- 地域の人や家族と高知ならではの食を楽しむことがあるかについては、70歳代以外は5年前と比べ高くなっている。
- 街路市の利用については、5年前に比べ20歳代の割合は高く、30歳代は低くなっている。
- 街路市の利用については、幼児保護者が子どもと「よく行く・ときどき行く」の割合が5年前と比べ、低く、特に20歳代の幼児保護者では、他の年代の保護者と比べても行く割合が低い。
- 高知の食を豊かだと「とても思う・思う」の割合は5年前と比べ、70歳代以外で高くなっている。

⑥農林漁業体験について

- 農林漁業体験の関心については、5年前と比べ、ほぼ横ばいだが、年代によっては関心のある割合が高くなっている。
- 関心がある農林漁業体験は、どの年代も農作業体験の割合が最も高い。

⑦環境への配慮や産地・生産者を意識することについて

- 環境に配慮した農林水産物や食品を選んでいるかについては、「選んでいる」割合が20歳代で最も低い、全国の同年代と比べると高い。
- 高知産を意識して農林水産物を選んでいるかについては、「選んでいる」割合は約75%である。
- 食品ロスが問題であることを知っているかについては、小中学生とも認知度は9割以上である。
- 食品ロスが問題であることを知っているかについては、成人では全国に比べ認知度が著しく高く、軽減する取組の実施割合も高い。
- 食品ロスを軽減する取組では、5年前と比べ「食べきれる量を購入する」「注文し過ぎない」の割合が低くなっている。

⑧食品の安全性について

- 食中毒予防の知識については、「全て知っている」割合が5年前に比べ高くなっているが、依然として低い。
- 「牛レバーや豚肉の生食用としての販売・提供の禁止」のみ、5年前に比べ、知っている割合が低くなっている。

⑨その他

- 災害への備えでは、5年前に比べ、どの世代も主食・副食の備蓄している割合が高くなっている。
- 20歳代の保護者が離乳食を学んだ場所としては、インターネット、家族について保育園等が高い。

②第3次高知市食育推進計画 食育推進に向けた目標値 達成状況

視点	目標	指標	3次計画作成時 (H30年度)		目標値 (R5年度)	現状値 (R5年度)	出典資料
えらぶ	健康的な食を選ぶ	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	20~30歳代 20~70歳代	29.9% 49.0%	35% 60%	○33.1% 48.7%	高知市食育に関するアンケート調査
	安全安心な食を選ぶ	食中毒予防のための正しい知識を持っている市民の割合	20~70歳代	14.1%	20%	○16.3%	高知市食育に関するアンケート調査
	高知の食を選ぶ	保育所給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合 (重量ベース) 学校給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合 (食材数ベース)	保育所	45.3% H29年度値	55%	42.3% R4年度値	地域食材使用状況調査
学校			40.5% H28年度値	50%	○48.8% R4年度値	教育環境支援課	
はぐくむ	健康な心身をはぐくむ	朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	幼児 小学生 中学生 20~30歳代	95.5% 89.1% 78.6% 68.3%	98% 95% 90% 75%	◎98.0% ○92.5% ○85.6% ○70.9%	高知市食育に関するアンケート調査
		減塩に気をつけた取組をしている市民の割合	20~70歳代	68.0%	74%	◎76.9%	高知市食育に関するアンケート調査
		ゆっくりよくかんで食べる市民の割合	20~70歳代	35.8%	45%	○37.6%	高知市食育に関するアンケート調査
		歯肉炎になっていない小中学生の割合	小学生 中学生	74.8% 67.6%	81% 74%	○77.6% ○72.2% R4年度値	高知市立学校保健調査
	高知の食(食材・食文化)を大切にする	栽培活動を含む農林漁業体験活動に取り組む保育所・幼稚園・認定こども園・学校の割合	保育所 幼稚園 認定こども園	93.1% 100% 87.0%	98% 100% 92%	92.0% 60.0% 84.6%	園における食育の取組等に関する調査
			小学校	82.9%	92%	79.1% R4年度値	農林水産課
	高知の自然環境を大切にする	高知の食を豊かだと思ふ市民の割合	20~70歳代	83.9%	93%	○86.7%	高知市食育に関するアンケート調査
食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	20~70歳代	98.0%	98%	◎99.0%	高知市食育に関するアンケート調査		
つなぐ	一人ひとりが取り組む	「食育」の取組をしている市民の割合	20~70歳代	98.1%	100%	97.3%	高知市食育に関するアンケート調査
	ライフステージをつなぐ	食に関する指導計画を作成している保育所・幼稚園・認定こども園の割合	保育所 幼稚園 認定こども園	85.1% 50.0% 73.9%	100% 55% 79%	○94.3% 40.0% ◎88.5%	園における食育の取組等に関する調査
	命をつなぐ	災害時の食の備えを実践している市民の割合	20~70歳代	66.5%	80%	○73.5%	高知市食育に関するアンケート調査
	次世代へつなぐ	高知ならではの料理や食材を食べたことがある小中学生の割合	小学生 中学生	88.7% 83.5%	95% 92%	82.7% ○85.4%	高知市食育に関するアンケート調査
			20~70歳代	84.1%	90%	84.6%	高知市食育に関するアンケート調査
	社会をつなぐ	地域の人や家族と高知の食を楽しむ市民の割合	小学生 中学生 20~70歳代	52.2% 49.2% 50.1%	62% 60% 60%	○56.4% ○54.6% ○53.4%	高知市食育に関するアンケート調査
			60~70歳代	54.4%	60%	54.1%	高知市食育に関するアンケート調査
高知市食育推進計画に基づき、連携・協働して食育活動に取り組む団体等の数			「こうちし食育やるぞねっと」登録団体数	10団体	15団体	◎15団体	「こうちし食育やるぞねっと」登録団体数

◎：目標を達成した項目
○：作成時より改善あるいは上昇した項目

③アンケート結果から見てきた高知市の課題

【課題】

- ・朝食を食べる人の割合は、5年前と比べ幼児、小中学生、20歳代では高くなっているが、50歳代以降はやや低くなっている。
- ・幼児、小中学生では、就寝時間が遅いほど朝食を食べる割合が低い。
- ・朝食を食べない理由としては、小中学生では「時間がない」「食べる習慣がない」の割合が高くなっており、成人では「食べる習慣がない」の割合が高い。
- ・若い世代(20～30歳代)では、朝食を食べることや栄養バランスに配慮した食生活を実践している割合が、5年前と比べると改善してきてはいるが、他の年代と比べると依然として低い。
- ・家族以外の人と食事をする機会は減少しているが、機会があれば参加したいと思う割合は70歳代以外では高くなっている。
- ・幼児では「食べ物を大切にする」「栄養バランスのとれた食事をする」などを実践している割合が低くなっており、また、幼児保護者では外食や惣菜・弁当を選ぶとき、「好きな料理」を重視する割合が最も高く、栄養バランスを重視する割合が低い。
- ・伝統的な行事の食べ物を家庭で食べる割合や高知ならではの料理や食材を食べたことのある割合が、幼児、小学生で低くなっている。

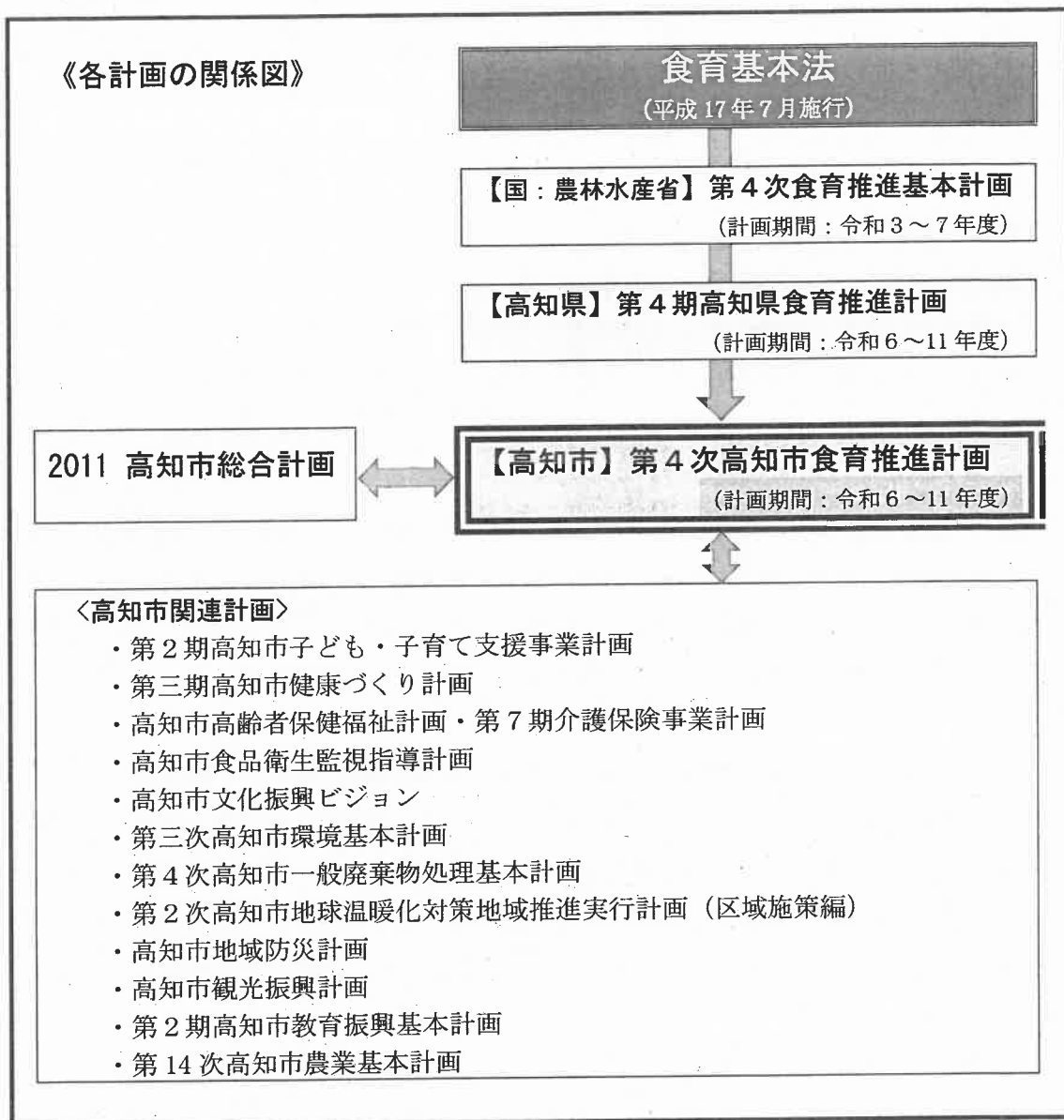
【方向性】

- ・若い世代の朝食欠食、栄養バランスの偏りなどの食生活の課題は、将来の健康状態に影響を及ぼすため働きかけが必要。
- ・小中学生や高齢者の共食については、生活の多様化を踏まえ、誰かと共食できる環境を整えていく必要がある。
- ・子どもに基本的な食習慣づくりや、地域の料理や食材・伝統的な行事の食べ物を伝えていくことは大切であるため、地域の関係者が連携し、子どもだけでなく、保護者や若い世代に対しても取組を行うことが必要。

(2) 第4次高知市食育推進計画について

① 計画の位置づけ・計画の期間

● 計画の位置づけ



● 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度から令和11年度の6年間とする。

②スローガン・食育推進の視点

●基本理念 : 食とひとがつながり輝く元気なまち (承認済)

●スローガン : 豊かな食 おいしくいただき みんなあ こじゃんと* 元気!

※「こじゃんと」とは、土佐弁で「とても」「とことん」などの意味を表します。
ここでは、食材と、それを育てる環境、またその恩恵を受ける人々、その全てが
とても元気というイメージで使っています。

●食育推進の視点

(1)「えらぶ」 : 食をえらぶ力を高める

健康の保持増進や食の安全安心確保のために、市民一人ひとりが食に関する知識を習得し、食を選ぶ力を高めることが重要です。また、豊かで多種多様な高知の食を、もっと地元で味わう視点が必要です。

(2)「はぐくむ」 : 高知の食をとりまく環境を大切にし、健康な心身をはぐくむ

高知の食には恵まれた環境・特色ある文化・歴史があります。このすばらしい高知の食を大切にし、さらに発展させることをめざします。また、*ライフステージにあわせ、自分自身や家族のこころや身体の健康を育んでいく視点も重要です。

(3)「つなぐ」 : みんなで人の輪をつなぐ、食育の輪をつなぐ、次世代につなぐ

食育の主役は市民一人ひとりです。家庭をはじめ、保育所・幼稚園・学校などでの取組を核として、地域や企業(食品関連を含む全ての企業)等の関係者が連携・協力しながら、*ライフコースアプローチをふまえた食育に取り組めるしくみを充実させ、食育の輪を広げつなげていく視点や環境への負荷を減らし、持続可能な社会とする視点も必要です。

また、一緒に食を楽しむ・経験するといった人の輪をつなげていくこと、命をつないでいくために災害時の食の備えも大切です。

*ライフステージ : 人の一生において、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、高齢期など、年齢ともなって変化するそれぞれの段階のこと。

*ライフコースアプローチ : 胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた健康づくり。

(参考)

図表2：健康日本21（第三次）の概念図



＜健康日本21(第三次)推進のための説明資料より＞

③取組の柱と具体的な取組

●取組の柱

- ・生涯を通じた健康なところと身体のための食育
- ・次世代に豊かな食をつなぐための食育

(1) 生涯を通じた健康なところと身体のための食育

食は生きていくうえで欠かせないものです。生きる力を身につけるためには、何よりも「食」が重要であり、命を大事にし、生涯にわたってところも身体も健康であるための食育を推進します。

【具体的な取組】

- ① 基本的な食習慣を身につけるための取組
- ② 生活習慣病を予防するための取組
- ③ 低栄養を予防するための取組
- ④ 歯と口の健康のための取組
- ⑤ 安全な食生活を送るための取組
- ⑥ 災害に備えるための取組

(2) 次世代に豊かな食をつなぐための食育

食は生きるためにただ空腹を満たすだけでなく、食にまつわる様々なことを大切にすることで、人間形成に大きな影響を及ぼし、人生を豊かにします。環境への配慮、食文化の継承など関係者が連携し、高知の豊かな食を次世代へつなぐ食育を推進します。

【具体的な取組】

- ① 環境を大切にするための取組
- ② 高知の食（食材・食文化）を大切にするための取組
- ③ 農林漁業への理解を深めるための取組
- ④ 人の輪をつなげるための取組